

ID No.	246
研究課題名	神経内分泌腫瘍(NET)のがん抑制遺伝子 PHLDA3 欠損マウス作製による NET 発症メカニズムの解明
研究代表者	大木 理恵子 (国立がん研究センター研究所・主任研究員 (グループリーダー))
研究組織 受入教員 研究分担者	市瀬 広武 (東京大学医科学研究所・講師)
研究報告書	
<p>PHLDA3 遺伝子が神経内分泌細胞においてどのような機能を持つのか、in vivo で解析を行う目的で PHLDA3 コンディショナル KO マウス作製を進めている。本マウスを作製する事で、NET 発症の分子メカニズムの解明につながる結果を得る事が出来る。またこのマウスは良い NET モデルマウスとなる事が期待される。</p> <p>今年度はターゲティングベクターを作製し、遺伝子改変マウス作製の準備を行った。</p> <p>本年度は、医科学研究所への来所は0回であったが、これまではベクター構築部品のアセンブルに専念しており、部品については郵送でやり取りを、打ち合わせ・データのやり取りはメールで行っており、経過報告の時点までには出張の必要が発生しなかった。</p>	